

特別史跡熊本城跡保存活用委員会 [2019.3.28 意見 及び 当日回答・今後の対応]

委員	2019.3.28 の宿題・意見	◆当日の回答 ◇今後の対応
【 計 画 部 会 】		
西嶋	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の委員会運営においては、食い違いが起きないように事務局は真摯な対応を。 ・ワークショップで聞くときは、部会・委員会での議論内容も伝えて実施すべき。 ・部会当日、別室での構想説明は部会だったのか（関係団体意見聴取）、認識の食い違い。 ・「保存活用基本構想」は重要な資料なので、事前送付のみでなく当日も配るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇委員の意見を伺いながら、委員会の適切な運営に努める。 ◇ワークショップは委員にも案内を出し、議論内容も紹介する。 ◇千葉城地区整備計画については、委員会として審議・報告する。 ◇事前送付と同じ資料を、当日も再度配布する。
【 公 開 活 用 部 会 】		
宮武	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアでも見学通路が永久構造物として居座ると誤解。事務局は、着工時などの機会に「いつまでの仮設物でいつ撤去予定なのか」などを丁寧な説明を行うべき。 	◇報道公開する機会等を捉えて、見学通路が 20 年間の仮設構造物であることを周知していく。
西嶋	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は「仮設見学通路」という名称だったので、期間が短い「仮設」だと思われ、いろんなところで混乱が生じた。20 年でも「仮設」か。専門家と一般人の捉え方がずれている。 	◆誤解を招かないよう、しっかりと説明していく。
西嶋	<ul style="list-style-type: none"> ・夜の観光が非常に重要。熊本に滞在し泊まっていただく。これまで「回遊」というキーワードだったが、「滞在」の優先順位を上げ、夜の公開・活用を議論する機会を作って。 	◇「滞在」も重視し、夜の公開・活用についても委員会で議論する。
【 復 旧 工 事 の 進 捗 状 況 】		
西嶋	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木について、「保存活用計画」の中であるべき姿を定めるべき。委員会できちんと検討して市民に問うなど必要。 	◆今後、方向性を定めていく。
長谷川	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中にも災害が起きる可能性あり。ソフト対策、緊急地震速報の装置を付ける、速やかに誘導するスタッフのトレーニングを行うなど、公共工事なので安全性を忘れずに。 	◆避難計画やソフト的な対応も進めていく。
西嶋	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市は都市デザイン室で景観形成の調査及び現計画の見直しを行い、中心市街地グラウンドデザイン 2050 では高度化すべき建物の更新地域があり中長期的に検討すべきとある。 ・文化庁の保存活用地域計画の考え方にに基づき、熊本城総合事務所だけでなく観光政策課と連携して、地域の中で保存活用の大きな中心という位置づけで熊本城を捉え直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇千葉城地区の整備計画では、熊本城の景観に配慮し、広い視野での検討に努める。 ◇文化庁の「文化財保存活用地域計画」などの考え方も参考に。観光政策課とも連携し、滞りに結びつくような計画の策定を目指す。
毛利	<ul style="list-style-type: none"> ・神風連・西南戦争その他記念碑の危険箇所点検は終わったか。清爽園の慰霊碑も直して。 ・藤崎台にある国指定天然記念物のクスノキ群の案内看板は、何度指摘しても幹回りを書いてくれない。県の担当者にも伝え、県と市で相談すると言っていたが、未だにそのまま。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆記念碑などの危険箇所の点検については、再度把握をする。清爽園は早期に戻す検討。公園施設という観点でも問題点を洗い出す。 ◆クスノキ群については再度県に話をし、県市連携して対応する。
【 平 成 3 1 年 度 の 委 員 会 に つ い て 】		
毛利	<ul style="list-style-type: none"> ・特別史跡に指定されていない場所、いずれ指定していこうという場所の保存活用について検討する委員会を設けてほしい。 	◇史跡外についても熊本城域は保存活用委員会が対応する。